2016 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	人文科学研究所
評価基準１	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1　大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2　大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3　大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	本研究所の設置目的は、平成２年制定の「大東文化大学人文科学研究所規程」に、「人文科学に関する学術の研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果を社会への還元を目的とする。」と明記されている。この理念・目的のもとに、創設以来、学術研究、関連事業、成果の社会への還元が、いずれも順調に行われて今日にいたっている。また国際化についても、外国籍の研究員が 11 名に増加した。とはいえ、「大東文化大学人文科学研究所規程」のこの理念には、個性化、独自性、国際化の観点が不十分であり、学部附設研究所における個性化、独自性、国際化に応えられる理念の形成と具体的な措置を検討する必要がある。
1-2	「大東文化大学人文科学研究所規程」に明記される本研究所の理念・目的をはじめ、諸活動についても、ホームページに常時掲載している。理念・目的に基づく諸活動については、毎年度「人文科学研究所所報」の公刊を通じて大学構成員はもとより社会にも年度単位の諸活動を公開し、2015 年度には「人文科学研究所規程」も掲載することにした。ただし、予算削減により 2016 年度以降はその刊行を断念したが、ホームページ運営の関係部署に提言して、本研究所のホームページにアクセスしやすくなったこともあり、所報に記載してきた活動報告をホームページ上に公開する方法に切り替えた。また、諸活動や研究員の追加・変更等は、学部長・研究科委員長・学科主任・所長等で構成する運営委員会で審議し、さらに教授会で報告乃至承認を得るなど、大学構成員への周知も十全に行える体制が整備されている。また、研究班の研究報告会や講演会・座談会等の活動については、他学部や他学部附設研究所等にも周知しているほか、大学院生への周知も行っている。ただし、理念・目的の本研究所研究員における理解度を検証するためにアンケートを 2015 年度に実施し、2016 年度も継続して実施する。
1-3	理念・目的を果たすべく実施する具体的施策は、人文科学研究所規定にしたがって、専任研究員で組織する研究部会において協議し、さらに学部長・研究科委員長・学科主任・所長等で組織する運営委員会に諮ったうえで実施している。また、理念・目的の本研究所全研究員における理解度を検証するためのアンケートも実施しているが、そのほかに理念・目的を定期的に検証する体制は未整備である。

【効果が上がっている事項】

1-1	研究期間２年の研究班数は、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」に掲げる目安「10 班以内」に適合する数で推移し、研究代表者（専任研究員）の学科間の偏りもない。また、研究所紀要「人文科学」、研究班の研究報告書の刊行も滞りがなく、研究成果の社会への還元は順調である。
1-2	本研究所の活動及び各班の研究活動の記録を公開するために、「人文科学研究所所報」を毎年公刊してきた。予算削減により 2016 年度はその刊行を断念し、ホームページ運営の関係部署に提言して、本研究所のホームページにアクセスしやすくなったこともあり、ホームページ上での公開に切り替えた。
1-3	研究班公募書類に「人文科学研究所規程」を添え、新研究班には「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」も配付し、組織や手続きを明確にしている。

【改善すべき事項】

1-1	学部附設研究所における個性化、独自性、国際化については、本学文学部の将来計画の必要に応じて、研究部会等で協議しつつ理念形成に努める。
1-2	本研究所のホームページの構成や内容を再点検し、2016 年度の早い時期に改善する必要がある。
1-3	理念・目的の周知に関するアンケートの実施以外にも、理念・目的を実質化する具体的施策の有効性を検証する方法を検討する必要がある。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B1-16	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html、「大東文化大学人文科学研究所規程」、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」、「人文科学研究所所報　平成 26 年度（№21）」、研究部会議事録、運営委員会議事録
〔追加資料〕理念・目的の周知に関して実施したアンケート	

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	研究部会や研究員による座談会等を通じて、研究班のさらなる活性化を進めつつ、研究所の個性化、独自性、国際化についても、理念形成に繋げられるように、適時取り上げて長期的に意見交換を行う。	研究部会等の議事録等における経年変化。	→			B		
	1-2 理念・目的の周知方法の有効性及び適切性を定期的に検証するためのアンケート内容を協議し、実施する。	研究部会等の議事録、アンケート集計結果。	→			A		
14 年度目標	1-1 研究班のさらなる活性化について、適時、研究部会、座談会等における意見交換を行う。	14 年度の研究部会等の議事録。	→	A				
	1-2 理念・目的に関して、周知方法の有効性及び適切性を定期的に検証するために、研究代表者を対象としたアンケート内容を協議する。	14 年度の研究部会等の議事録。	→	A				
15 年度目標	1-1 研究班のさらなる活性化について、適時、研究部会、座談会等における意見交換を行う。 1-2 理念・目的の周知方法の有効性及び適切性を定期的に検証するためのアンケート内容を協議し、実施する。	15 年度の研究部会等の議事録。実施アンケートの集計。			A			
16 年度目標	1-1 研究班のさらなる活性化について、適時、研究部会、座談会等における意見交換を行う。 理念・目的を実質化する具体的施策の有効性の検証方法を検討する。	16 年度の研究部会等の議事録				B		